

製品名: リン酸化βカテニン (S33/S37) (7V18) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe05861**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	CTNNB1
別名	CATNB; CTNB1; CTNNB; catenin beta; beta catenin;
遺伝子 ID	1499.0
SwissProt ID	P35222
免疫原	ヒトβカテニンの Ser37 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

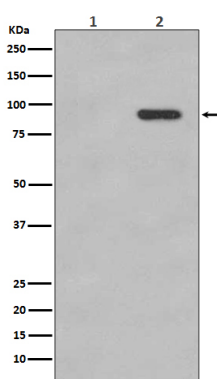
背景

β -カテニンは接着結合タンパク質です。接着結合 (AJ、接着帯とも呼ばれる) は、臓器表面を覆う上皮層などの形成と維持に不可欠です。AJ は細胞間の接着を媒介し、隣接細胞の存在を知らせるシグナルを伝達し、アクチン細胞骨格を固定します。これらの役割を果たすことで、AJ は正常な細胞の成長と挙動を制御します。標準的な Wnt シグナル伝達経路の重要な下流構成要素です (PubMed:17524503、PubMed:18077326、PubMed:18086858、PubMed:18957423、PubMed:21262353、PubMed:22155184、PubMed:22647378、PubMed:22699938)。Wnt が存在しない場合は、AXIN1、AXIN2、APC、CSNK1A1 および GSK3B と複合体を形成し、N 末端の Ser および Thr 残基のリン酸化と BTRC を介した CTNNB1 のユビキチン化、およびそれに続くプロテアソームによる分解を促進します (PubMed:17524503、PubMed:18077326、PubMed:18086858、PubMed:18957423、PubMed:21262353、PubMed:22155184、PubMed:22647378、PubMed:22699938)。Wnt リガンド存在下では、CTNNB1 はユビキチン化されずに核内に蓄積し、TCF/LEF ファミリー転写因子のコアクチベーターとして作用し、Wnt 応答遺伝子の活性化につながる (PubMed:17524503、PubMed:18077326、PubMed:18086858、PubMed:18957423、PubMed:21262353、PubMed:22155184、PubMed:22647378、PubMed:22699938)。E カドヘリン: カテニン接着複合体の構成要素として細胞接着の調節に関与する (類似性による)。中心体接着の負の調節因子として作用する (PubMed:18086858)。インスリン内在化の CDK2/PTPN6/CTNNB1/CEACAM1 経路に関与する (PubMed:21262353)。DAPK2 のダウンレギュレーションにより、悪性腎細胞および悪性腸管上皮細胞のアノキスを阻害し、足場非依存性増殖を促進する (PubMed:18957423)。RANBP2 を介した PML の SUMO 化を阻害することにより、PML 機能および PML-NB 形成を阻害する (PubMed:22155184)。交感神経芽細胞を細胞周期内に維持することにより、神経新生を促進する (類似性による)。SOX9 との相互作用を介して軟骨細胞分化に関与する: SOX9 結合は CTNNB1 内の TCF/LEF 結合部位と競合し、Wnt シグナル伝達を阻害する (類似性による)。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



(1) 293T 細胞溶解物、(2) カリキュリン A 処理した 293T 細胞溶解物におけるホスホ β カテニン (S33/S37) 発現のウェスタンブロット解析。